

創刊に寄せて

岡野安洋

北里大学教職課程センター長

北里大学における教職課程の歴史は古い。本学の開設は1962（昭和37）年で、翌年にはすでに教職課程研究室を置き、教職課程開設の認定を受けている。当時は、現在の理学部と医療衛生学部の前身となる、衛生学部のための単科大学であった。その後、順次学部が増設され、現在では7学部を擁する「生命科学の総合大学」となっている。それにつれて、教職課程を置く学部も、理学部、海洋生命科学部、獣医学部、看護学部と、現在では4学部となっている。

本学の教職を志望する学生は、それだけでなく過重な専門の勉強に時間をかけると共に、教職への情熱や夢を実現させるため、他の学生が自由を楽しんでいる時間を教職の勉強に充てている。そうした学生の熱い思いに応えるべく、教員も組織的な力を集中させて学生を支援するため、各学部にも所属する教員を一つの組織にまとめた、教職課程センターを2013（平成25）年に組織し、全面的なバック・アップに当たっている。現在センターは7名の専任教員と、若干の非常勤講師で運営されている。その成果の一つとしては、最近の教員採用試験において、順調な実績を積み重ねていることが挙げられる。

ところで旧教職課程研究室では、1978（昭和53）年から『北里大学 教職課程研究年報』という研究誌を発行していた。しかし、教職課程が教養部（現一般教育部）に移るという組織変更が行われたことなどを受けて、10号を出した1987（昭和62）年を最後に廃刊となっている。そこで、発足3年目の教職課程センターでは、センターに所属する教員の日頃の研究成果を発表する場として、またセンターの活発な活動を報告する場として、新たに『北里大学教職課程センター教育研究』という研究誌を創刊することとした。これによって、北里大学教職課程センターの教育・研究の質の高さと、広範な活動内容が広く理解されることを切に願っている。またこれを契機として、学外諸機関との有機的なつながりが強化されることも期待できると思う。